

# 冬の天候の見通し 東海地方 12～2月

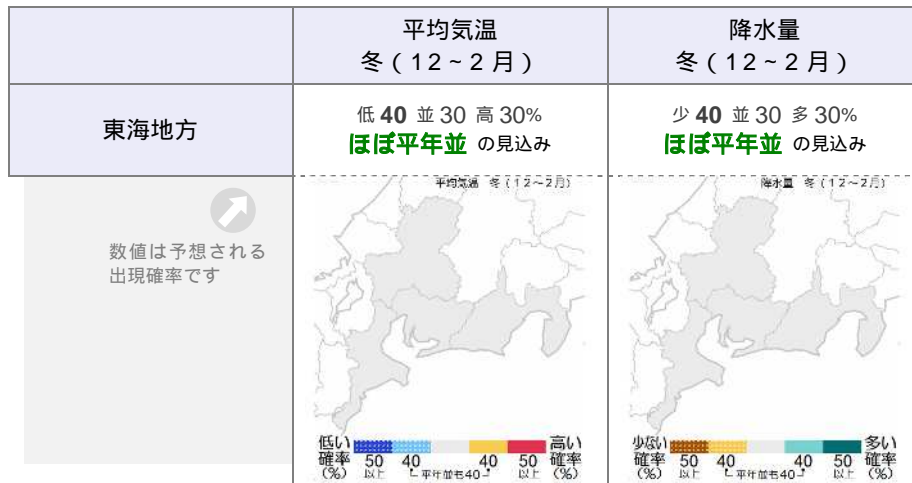
名古屋地方気象台

## 予報のポイント

- 平野部では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。岐阜県山間部では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い見込みです。
- 冬の気温は、ほぼ平年並の見込みです。
- 岐阜県山間部の冬の降雪量は、ほぼ平年並の見込みです。

冬の天候に影響の大きい北極振動の予想は難しく、現時点では考慮できていませんので、予報には不確実性があります。常に最新の1か月予報等をご覧ください。

## 冬（12～2月）の平均気温・降水量



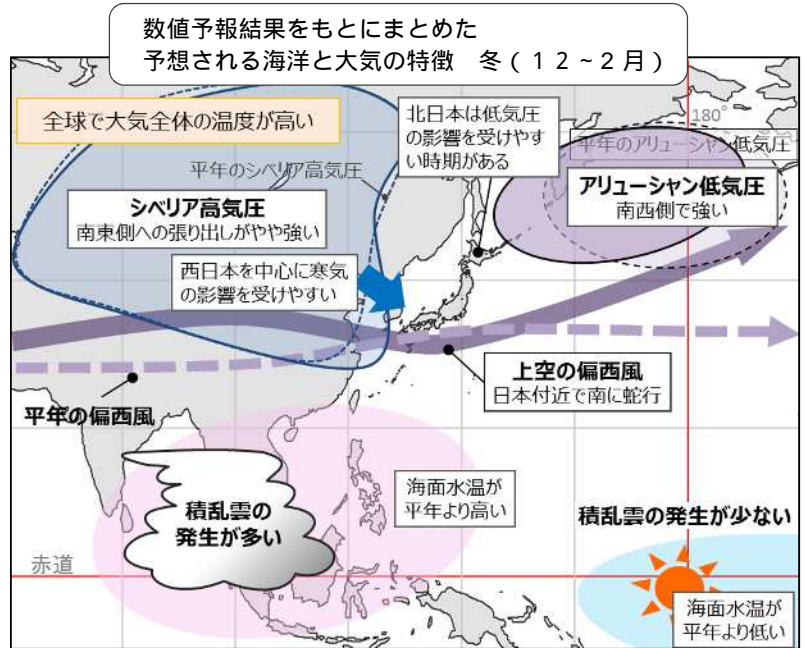
季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。

### 確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い）確率が50%以上 (20 : 40 : 40)	<b>高い（多い）</b> 見込み
平年並の確率が50%以上 (40 : 30 : 30) (30 : 40 : 30) (30 : 30 : 40)	<b>平年並</b> の見込み
	<b>ほぼ平年並</b> の見込み
	<b>平年並か低い（少ない）</b> 見込み
低い（少ない）確率が50%以上 (40 : 40 : 20)	<b>低い（少ない）</b> 見込み

## 予想される海洋と大気の特徴

- 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高いくでしょう。
- 海面水温はインド洋から太平洋熱帯域西部で高い一方、太平洋赤道域中部から東部では低い見込みです。積乱雲の発生はインドシナ半島付近で多い一方、太平洋中部で少ないでしょう。
- これらの影響により、上空の偏西風はユーラシア大陸上で平年に比べ北よりを流れますが、日本付近では南へ蛇行するでしょう。
- 西日本を中心に冬型の気圧配置はやや強く、寒気の影響を受けやすいでしょう。また、北日本は低気圧の影響を受けやすい時期があるでしょう。



## 最近 10 年間の冬の特徴

年	冬の平均気温 (東海地方) 平年差 (階級)	冬の天候の特徴
2011/'12	-0.8(-)	冬型の気圧配置が平年より強く、寒気の影響を受けやすくなりました。
2012/'13	-1.1(--)	冬型の気圧配置や寒気の影響を受けやすくなりました。
2013/'14	-0.4(-)	2月は発達した低気圧の影響で、太平洋側で大雪となった所がありました。
2014/'15	-0.5(-)	12月は寒気の影響を受けやすく低温となり、太平洋側で大雪となった所がありました。
2015/'16	+1.1(++)	寒気の南下は弱く暖かい空気に覆われたため、記録的な高温となりました。
2016/'17	+0.3(0)	前半は顕著な高温多雨。後半は平年並から低温で、冬型気圧配置時の大雪もありました。
2017/'18	-1.1(--)	2月半ばまで冬型の気圧配置となる日が多く、一時平野部にかけても大雪の日がありました。
2018/'19	+1.0(+)	冬型の気圧配置が長続きせず高温寡照となり、1月の降水量はかなり少なくなりました。
2019/'20	+1.9(++)	冬型の気圧配置が続かず、記録的な暖冬、記録的な少雪となりました。
2020/'21	+0.8(+)	前半は冬型の気圧配置や寒気の影響を受けやすく、後半は暖かい空気に覆われ高温となりました。

「2020/'21」は2020年12月～2021年2月のことです。  
階級 --: かなり低い - : 低い 0: 平年並 + : 高い ++: かなり高い

## 参考データ

### 平年並の範囲

	平均気温 冬(12～2月)	降水量 冬(12～2月)
東海地方	平年差: -0.3～+0.3	平年比: 92～117%
名古屋	5.5～6.0	142.6～206.7mm

「平年並」の範囲は、同時期の過去30年間(1991-2020年)の値から統計的に求めています。30年間のデータの中で「高い(多い)」「平年並」「低い(少ない)」となるデータの数が等分になるように「平年並」の範囲を決めています。すなわち、30年間の30個のデータのうち、値が高い(多い)方から11～20番目となる10個のデータの値の範囲を、おおそ「平年並」の範囲としています。

### 晴れ日数と降水日数の平年値

	12月		1月		2月	
	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数
名古屋	21.2日	6.2日	21.6日	5.2日	20.2日	6.2日

「晴れ日数」は「日照時間が可照時間の40%以上」の日数であり、「降水日数」は「日降水量1mm以上」の日数です。この2つは同じ日に起こることがあるため、「晴れ日数」と「降水日数」の両方に数えられる日もあります。